

福島第一原子力発電所の状況

2015年7月13日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (7/13 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.0 m ³ /h	25.1	1.1 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約2.4 m ³ /h			B系： - *1 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.4 m ³ /h	31.3	5.40 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約2.0 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約2.3 m ³ /h	28.8	0.25 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約2.0 m ³ /h			B系： 0.05 vol%

*1 作業に伴いデータ欠測

<2. 使用済燃料プールの状況> (7/13 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	27.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	26.4 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	24.5 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	22.7 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルへヒドラジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
1号機	タービン建屋	→	1号機廃棄物処理建屋	7/12 10:07~16:12 移送実施
2号機	タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	7/7 15:02~ 移送実施中
3号機	タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	7/9 10:19~7/11 9:51 移送実施 7/13 10:10~ 移送実施中

・2015/7/11 2015/6/18 の移送作業時に確認した3号機廃棄物地下貯蔵建屋(以下、「FSTR建屋」という。)の廃スラッジ貯蔵タンク(A)の変形事象に鑑み、各FSTR建屋内に設置されているタンクの点検を実施し、点検の結果、2号機増設FSTR建屋、3号機増設FSTR建屋および4号機FSTR建屋内に設置されているタンクについて、変形等の異常がないことを確認した。なお、各FSTR建屋から各号機廃棄物処理建屋への滞留水移送については、水質に問題がないことを確認したことから、今後、各号機廃棄物処理建屋滞留水の水位等を確認しながら、計画的(断続的)に実施することとした。

・2015/7/13 12:15 より、2号機増設廃棄物地下貯蔵建屋滞留水を2号機廃棄物貯蔵建屋へ移送開始。本移送については、2号機増設廃棄物地下貯蔵建屋滞留水の水位を確認しながら、断続的に実施中。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (7/13 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	運転中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- 2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性や地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18箇所)を対象に試験凍結を開始。
- 2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽(フランジ型タンク)の解体作業を開始。
- 2015/7/13 9:15頃、6号機原子炉保護系のMG - SET*(A)が自動停止するとともに、
「原子炉A系自動スクラム」警報が発生。6号機原子炉保護系のMG - SET(A)停止に伴い、原子炉建屋換気空調系が自動停止し、非常用ガス処理系が自動起動。本件による主要設備の動作状況への影響はない。
その後、原子炉保護系のMG - SET(A)の自動停止については、本日実施していたメタクラ(M/C)6Cの点検作業に起因したものであることが判明し、当該点検を行うにあたっては、事前に必要な安全処置を実施していたが、本日の作業として、リレー等の試験を実施する際に、誤って安全処置の一部を復旧したため、原子炉保護系のMG - SET(A)が自動停止した。
原子炉保護系のMG - SET(A)については、13:39に起動操作を行うとともに、非常用ガス処理系から原子炉建屋換気空調系への復旧操作を行い、14:45に復旧操作を終了し異常がないことを確認。詳細な原因等については、今後調査を実施する。
なお、現在の6号機は既に原子炉内から燃料が取り出され、使用済燃料プールに全ての燃料が保管されている状態で、プール冷却等に問題はなく影響はない。また現時点で5・6号機プラントパラメータおよびモニタリングポスト指示値に有意な変動はない。

*MG - SET : 電動機で発電機を駆動する装置

【1号機原子炉建屋カバー解体作業】

- 2015/3/16 1号機の原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体工事に向けて準備工事を開始。
5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタ及びモニタリングポストのダスト濃度等に、有意な変動は確認されていない。
- 屋根パネル(計6枚)の取り外し作業を5/26頃から開始することとしていたが、原子炉建屋3階機器ハッチ開口部に設置したバルーンが、所定の位置に設置されていないことが確認され、復旧に時間を要することから、屋根パネルの取り外し作業を延期する。なお、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等に有意な変動は確認されていない。

【海水配管トレンチ立坑閉塞充填作業状況】

- 【2号機】•2015/2/24 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業開始。
6/30 海水配管トレンチ内の滞留水 約4,500m³の除去完了。
7/10 海水配管トレンチ内の充填完了。
- 【3号機】•2015/5/2～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を実施中。
6/12～ 当該作業に伴う海水配管トレンチ内の滞留水については、塩分濃度等を考慮しつつタービン建屋へ排水しているが、タービン建屋滞留水の塩分濃度が上昇した場合、汚染水処理に影響を及ぼすことが考えられるため、一時貯留先として1号機復水貯蔵タンク(以下、「1号機CST」という。)へ滞留水の受け入れを行う。その事前準備として、受け入れ可能な容量を確保する目的で、1号機CSTに貯留されている汚染水を1号機廃棄物処理建屋へ移送を行う。
- 【4号機】•2015/4/15～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、開口部への閉塞材料の充填作業を実施中。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- 地下水バイパス揚水井 No.10 については、6/29 に採水した水の分析結果において、トリチウム濃度が運用目標値の1,500 Bq/L であることを確認したことから、当該揚水井の汲み上げを6/30に停止。今後、地下水バイパス一時貯留タンク内の評価を行う。

【1～3号機放水路の状況】

※1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム137の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて】

<K排水路排水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。また、港湾口連続モニタの値に有意な変動が確認されていないことから、外洋への影響はないものと考えている。引き続き、監視を継続する。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上